

一

次の各問いに答えなさい。

**問一** 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 オンコウな性格の持ち主。
- 2 宿題をテイシユツする。
- 3 薬をフクヨウしている。
- 4 ピアノのエンソウ会に参加する。
- 5 反対意見を退ける。
- 6 巧みに策略を練る。
- 7 道が縦横に走る。
- 8 心の痛みを察する。

**問二** 次の熟語の読み方としてふさわしいものを、あとのア～エからそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

- 1 台所
- 2 本棚
- 3 側面
- 4 値段
- 5 出口

ア 音・音読み

イ 訓・訓読み

ウ 重箱読み(音・訓読み)

エ 湯桶読み(訓・音読み)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あなたはいい加減な人だ——そういわれたなら日本人のだれもがフカイ、<sup>①</sup>どころか、腹もたてることだろう。わたしのどこがいい加減なんですか、と、ムキになって反論する人も多いにちがいない。ということは、「いい加減」という言葉がけっして好ましいことではないことを語っている。

しかし、考えてみると、これはまことに奇妙な<sup>A</sup>ことではあるまいか。「いい加減」というのは字義<sup>\*1</sup>どおりに解すれば、よい加減という意味であり、<sup>I</sup>適切な、ということだからである。したがって、いい加減な人というのは、ものごとに対してきわめて適切な処置のとれる人、感情の起伏<sup>きふく</sup>が激しくなく、いつも平静を保っていることのできる人、過激な行動に走ることなく、つねに節度をわきまえている人、ということになる。にもかかわらず、いい加減な人間といわれると、十人のうち十人までが憤<sup>いきしお</sup>るといのは、この言葉がけっしてそうした字義どおりの意味で使われていないことを証明<sup>②</sup>している。そこで私はあらためて辞書『広辞苑』第二版』を引いて<sup>B</sup>みる。すると、「好い加減」の項にはつぎの三つの意味が記されている。

- ① よい程あい。適當。
- ② 条理を尽さぬこと。徹底せぬこと。でたらめ。いいくらい。
- ③ (副詞的に用いて) 相当。だいぶん。かなり。

そして、第三の意味の用例として、「いい加減待たされた」という用法があげられている。だが、どう考えてみても、この三つの意味のあいだには関連が見いだせそうにない。「適當」と「でたらめ」と「かなり」に、どんな共通項<sup>C</sup>があるのだろうか。まったくニュアンスを異にする意味を三つもふくんでいるとすれば、<sup>D</sup>「いい加減」という言葉は文脈で判断するほかない。おそらく、日本語のなかで外国人に最も理解しがたいのは、こうした言葉であろう。時と場合によって、その意味が異なるどころか、正反対の意味にさえなってしまうのであるから。

II、子供のいたずらが過ぎると、母親はきまって「いい加減にしなさい!」<sup>しか</sup>とって叱る。この場合の「いい加減」は、いうまでもな

く第一の意味、すなわち「よい程あい」にせよ、ほどほどにしる、ということである。Ⅲ、そういわれて子供が「いい加減」なことをしたとすると、これまた叱責しっせきされることになる。「いい加減」とは「でたらめ」ということでもあるからだ。「いい加減にしなさい！」といって子供を叱った母親は、そういうながら子供が「いい加減な人間」になることを、けっして望んではないのである。

ではなぜ、「いい加減」が好ましからざる意味を持つようになったのであろうか。それはおそらく、「よい加減」ということを日本人がいいことと思わなかったにちがいない。どうして、いいことと思わなかったのか。その心の底には、日本的自然主義があるように私は思う。

(中略)

私は『広辞苑』にあげられている「いい加減」の三つの意味のあいだに何の関連も見いだせそうにないといった。だが、以上のように考えると、この三つの意味はやはり見えざる糸で結ばれていることに気づく。それはともに日本人の自然観の正直な告白なのである。自然は見方によれば神かみの摂理せつりのように「程よく調節されて」いる。けれども、べつの観点に立てば、けっして人間の思わくどおりには動いてくれない。

Ⅳ 時として、自然はまさしく「条理を尽さぬ」「でたらめ」のように思えるのだ。

むろん、自然が「不条理」のように思えるのは、人間の尺度と自然の尺度とがちがうからである。そして、その尺度のずれが「いい加減」の第三の意味を形づくる。この言葉が第三の意味、すなわち「いい加減待たされた」というふう「かなり」「だいぶ」の意味に使われるのは、人間の考えている尺度よりも自然の尺度のほうがひとまわり大きく、時間に関していうなら悠長ゆうちやうであることを暗黙あんもくに表現しているのだ。つまり、「いい加減」という言葉の意味はすべてその根を「自然」に持っているのである。だから、この言葉を「X」に置きかえてみれば納得がゆく。「いい加減待たされた」というのは、自然の運行のように待たされたということであり、「いい加減な処置」というのは、自然に放置されたような処置のことであり、「湯加減は？」と、きかれて「たいへんいい加減です」などと答えるのは、湯の状態が自然のように程よく

Y されている、ということなのだ。

だとすれば、この言葉こそ、世界で例外といえるほど優しい山河、おだやかな自然にめぐまれた島国に暮らす日本人独特の表現であり、日本人の心性をこの上なく雄弁ゆうべんに語っている興味深い日常語——といえるのではなからうか。

(森本哲郎『日本語 表と裏』より)

\*1 字義——漢字の意味

\*2 摂理——神の決めた計画、法則

問一——線①～③のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

問二 本文中 **I** ～ **IV** にあてはまる語句として適切なものを、それぞれあとの**A**～**O**から選んで記号で答えなさい。

- A** ところが    **I** なぜなら    **U** つまり    **E** たとえば    **O** だから

問三——線**A**「これはまことに奇妙なことではあるまいか」とありますが、何が奇妙なのですか、**六十字以内**で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

反論    字義    いい加減な人

**問四** 本文中の「**みる**」と同じ用法の「みる」をあとの**ア**～**エ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 投球フォーム改善のために新しい練習方法を**試みる**。
- イ** 庭に植えたひまわりの種が**みるみる**うちに育った。
- ウ** 旅行で訪れた神戸の南京町に行**ってみる**。
- エ** 夏祭り**で**きれいな花火を**みる**。

**問五** —線**B**「三つの意味が記されている」とありますが、あとの**ア**～**ウ**の文はそれぞれ『広辞苑』に書かれている**①**～**③**のどの意味として使われていますか、**①**～**③**の記号で答えなさい。

- ア** 学校の宿題を**いい加減**にしたので、放課後、先生に怒られてしまった。
- イ** ハンバーグを食べやすい**いい加減**な大きさに丸めて、フライパンで焼く。
- ウ** 何度も同じ練習を繰り返しているので、**いい加減**疲れてきた。

**問六** —線**C**「共通項」とありますが、どんな共通項ですか、本文中（中略）より前の部分から**七字**で抜き出してください。

問七 — 線D 『いい加減』という言葉は文脈で判断するほかない」とありますが、それはなぜですか。次の文の□に合うように本文中から

三十五字〜四十字以内で抜き出し、そのはじめとおわりの**五**字を答えなさい。(句読点も字数に含めます)

三十五〜四十字以内

から。

問八 本文中  X  Y にあてはまる語句を、本文中からそれぞれ**二**字で抜き出しなさい。

問九 本文の内容を説明したものととして、最も適切なものをあとの**A**〜**E**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「いい加減」の意味が好ましくないと感じるので、言われた人の半分近くが憤りを感じる。
- イ 母親が子供を叱るときの「いい加減にしなさい」と言うときの、「いい加減」は「でたらめ」の意味である。
- ウ 日本人は自然を何があっても思い通りにならない、でたらめなだけの存在と考えている。
- エ 「いい加減」という言葉の多様性は、豊かな自然に恵まれた島国である日本人の心性からきている。

三

「私」と両親は、沖縄に家族旅行に来ている。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは毎日のように海に行った。飽きもせずに遠浅の珊瑚礁で色とりどりの魚たちの生活をのぞかせてもらった。中腰の姿勢でサンダルをはいたまま、海の中をどこまでも歩いていって水中めがねでのぞきこむと、魚たちは逃げることもなく食べ物を探したり、群れ同士で出会って向きを変えたり、さっと岩陰に隠れたりした。その色の鮮やかさ……黄色や青や赤が珊瑚の世界にまみれていた。

疲れて顔をあげると、いつも父と母が手を振ってくれた。

ニシ浜には拝所はま つかんじめになっているところがあり、花や酒や塩をたずさえて祈りを捧げる人たちを何回も見かけた。大きな岩の上に捧げものを置いて、みんなその前にすわって、海の方にむかって一心に祈っていた。目を閉じて、夫婦でいっしょに、あるいは親子で並んで。そして順番に、不器用な足取りで岩を降りていった。

何回かその姿を見て、父に説明を求めた。父は言った。

「その岩の上みたいな場所は特別で、島の人々にとって神様がおりてくる場所なんだよ。そういうところがあちこちにいくつもあるんだ。その岩の上もきつとそうなんだね。そこにいろいろな捧げものをして、お祈りすることを『うがん』っていうんだよ。」

母はある午後、暑いのにきちんとシャツを着て、岩の上で海の方に向かってうがんをする人たちをじっと見つめてこうつぶやいた。

「あんなふうに熱心に、自分以外のものに対して、疑いなく祈りを捧げられるなんて、なんてすばらしいことでしょう。」

I はサングラスをかけ、ビーチサンダルをはいた足を投げ出し、つばの広い帽子をかぶっていた。そして白い長袖のシャツを着て、下には黒い水着を着ていた。私たちは亀せんべいと黒糖をつまみながら、クーラーボックスに入れた飲み物を飲んでいた。ビールやジュースの缶も汗をかいていた。父は少し酔って、遠くの海と空を見ていた。海は青と緑にきれいに分かれて続いていき、どこまでも透明だった。白い砂に風が紋様をつくって、透けた水にずっと伝わっていた。波音は静かに絶え間なく続き、浜辺の砂を洗い続けた。

私は子供だったのに、どうしてそんなことがわかってしまったのかわからない。

きつと、あの島を包む独特の、頭がきーんとなるような静けさが、私の感覚に何か影響をおよぼしたのだろう。静けさの中で、海に浮かんでくる細かくて透明な泡のように私の中にはそのとき、ぼんやりとだがたしかに、こうなんだろうな、と思えることがあった。

ああ、お母さんはここで、お父さんに聞いてほしいんだ。「そんなふう祈ったことがある？」と。もしくは「そういうふう祈りたいことがあるの？」か。

私は、私がそれをお母さんに聞いてあげようかな、と思い、ふと顔をあげた。しかし海を見つめる母の横顔を見てまたも悟った。Ⅱではだめなんだ。ここは、お父さんが、言うべき場面なんだ。そしてお父さん以外の誰にもそれはできないんだ。まるで、ゲームに出てくる重要な呪文のように、今、この場所での時、お父さんが言うしかない質問なんだ。

しかしお父さんは黙ってビールをぐいと飲み、亀せんべいをぼりぼり食べて、足下の砂をさわっているだけだった。このパラソルの下で、家族三人で海を見ているのに、お父さんにはどうしてもなすべきことが伝わらないのだ。

そうすると何かきつと、とりかえしのつかないことになってしまいに違いない、と私は思った。私はとてもこわかった。

これから起きることへの漠然とした不安、それだけではなくて人がそうやっていくつものことをとりのがして生きていってしまうこと……まるで手につかんだ砂がさらさらと指の間からこぼれていくように、すくってもすくっても追いつかない、人と人との関係というものの広さ大さきに絶望を感じたのだと思う。

母は待っていた。Ⅲの言葉を。

それは、母の頭の中にいる、母に興味を持ってくれ、あれこれと質問をし、母の心をひきつけようとした出会ったころの父。そして理想の男。この世にいるはずがない全ての男性であり、母が幼い頃窓辺で夢にみた全ての、いるはずのない王子さまのしてくるはずの質問だった。もちろん父の中にその人物はちゃんと存在してはいるのだが、それはもはや「この広い宇宙空間には宇宙人がいないことはありえませんが」というくらいにかすかな部分で、恋をしているときほど必要にかられることがなかったのですっかり眠ってしまった。母は純粹すぎて、その事実をどうしても受け入れることができなかったのだろう。母と私を包む父の、別の次元の愛情を発見することができなかったのだろう。

D 仕方なく母はひとりで質問の答えを話し始めた。

(よしもとなな『なんくるない』)



問一 ――線①～③の語句や表現の説明として適切なものを、それぞれあとのア～エから選んで記号で答えなさい。

① まみれて

ア ところどころについて      イ 一面にひつついて      ウ すべてなくなつて      エ ぼんやりとにごつて

② 汗をかいて

ア 中身がこぼれて      イ ぬるくなつて      ウ 冷たく凍つて      エ 水滴がついて

③ 漠然と

ア ぼんやりと      イ はっきりと      ウ いらいらした      エ ばかばかしい

問二 本文中 **I** ～ **III** にあてはまる登場人物として、適切なものをそれぞれあとのア～オから選んで記号で答えなさい。

ア 両親      イ 母      ウ 父      エ 私たち      オ 私

問三 本文中 **まるで** と同じ用法の「まるで」を使って、短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず書きなさい。

**問四** — 線 **A** 「とりかえしのつかないことになってしまふ」とありますが、どういふことですか。その説明として最も適切なものをあとの**A**、**E**から一つ選んで、記号で答えなさい。

- A** 私にはなにもできず、今後なにもできなくなつてしまふといふこと。
- I** もう二度と沖繩に来ることができなくなるかもしれないといふこと。
- ウ** お父さんとお母さんの関係性が変化してしまふといふこと。
- E** 押所かなで願ひ事をして叶わなくなつてしまふかもしれないといふこと。

**問五** — 線 **B** 「私はとてもこわかつた」とありますが、それはなぜですか、解答欄に合うように本文中から**二十五字**で抜き出しなさい。

二十五字  
から。

**問六** — 線 **C** 「別の次元の愛情」とは、どのような愛情のことか、その説明として最も適切なものをあとの**A**、**E**から一つ選んで記号で答えなさい。

- A** 恋しい相手の全てを知りたいといふ激しい愛情。
- I** 家族に対して感じる、包み込むような穏おだやかな愛情。
- ウ** 自分をいつも見ていてほしいといふ、純粹な愛情。
- E** 関係性の不安を埋めたいといふ、自分勝手な愛情。

問七 — 線D「仕方なく母はひとりで質問の答えを話し始めた」とありますが、それはなぜですか、本文中の言葉を使って**五十五字以内**で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。

王子 純粹

問八 本文の説明として最も適切なものを、あとの**ア～エ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 本文では色彩表現を極力使わないことで、沖縄の風景における幻想的な雰囲気を作り出している。
- イ 海と山の対照的な風景によって、都会とは違った沖縄の独特な風景が巧みに描かれている。
- ウ 当時の私からの視点では「お母さん」「お父さん」、現代の私の視点では「母」「父」と呼び方が分けられている。
- エ 「うがん」や「宇宙の広大さ」を知ることによって、家族とは何かを私のはっきりと学び取っている。

問題は以上です。